

津田中だより



枚方市立津田中学校
令和7年2月3日
発行 校長 田中 博

自他敬愛

第12号

3年生、頑張り！！

私学入試 2月10日～



インフルエンザの流行が気になるところですが、月日の経つのは本当に早いものですね。「一月は行って」しまって、早くも二月になりました。二月も「逃げる」ようにさらに加速して過ぎ去ってしまうように思います。

さて、3年生は卒業テストも終わり、私立高校受験の出願手続き作業やテスト最終日には実際に出願にも行った人がいて、いよいよ来週は入学試験のピークとなります。これからは、自分の持っている力を存分に発揮できるよう、今まで以上にコンディションを整え、万全の状態です。試験の直前になると、どうしても気持ちばかりがあせってしまい、不安にもなりがちですが、今までやってきたことに自信をもってください。自分だけが不安になっているわけではありません。一緒に学んできたクラスの仲間がいます。自分を見失うことなく、仲間とともに最後まで声を掛け合いながら臨みましょう。

「授業を大切に」ということを始業式でも話をしましたが、どの学年どのクラスでも、とてもいい表情で授業に向かってくれているように思います。自然に学習班の中で会話があり、自ら学習にも取り組むなど、学習に対する姿勢がどんどんよくなっています。3年生は入試直前で当たり前かもしれませんが、1、2年生も同様です。何事も普段の積み重ねが大切です。いい雰囲気の授業をこれからもクラス全員でつくっていきましょう。

第42回市内公立中学校

生徒美術展



枚方市立第三中学校生徒作品

「市内公立中学校生徒美術展」が、今年度も1月15～20日に枚方市総合芸術文化センターにて開催されました。美術の授業で皆さんが取り組んだ作品がたくさん展示されていました。会場に訪れた人も多くいたと思います。他校の人の作品も見ることができますので、来年の開催時には興味のある人は足を運んでみてください。



1月24日
クラブ駅伝



運動部が日頃の練習の成果を駅伝に発揮しました。ここ数年は天候に恵まれず、中止となっていました。今年度は開催ができました。どのクラブもゴールを目指し、団結して「たすき」をつなぎました。クラブ対抗ですが、自分のクラブだけでなく出場選手みんなに、吹奏楽部や美術部、ESSも走路で熱い声援を送っていました。



昨日は「節分」でしたが、巻寿司を食べたり豆まきをした人もいます。この節分について少し学んでみましょう。起源や風習は諸説ありますが、次のように述べられていることが多くあります。

節分は「季節を分ける」という意味があり、暦上の春である立春の直前の日が節分に指定されます。2025年の立春は2月3日であるため、その前日の2月2日が節分になります。通常は2月3日が多いですが、節分の日付は、地球の公転周期のズレを調整するため、数年に一度ずれることがあり、2025年はその特例に該当します。

節分の起源は、古代中国の「追儺(ついな)」という儀式にさかのぼります。追儺は、悪霊を追い払うための行事で、日本に伝わる際に、豆を使った風習が加わりました。豆は、昔から「魔を滅する」という意味を持っており、邪気を払うために撒かれるようになったのです。その後、特に豆まきが一般的になり、「鬼は外、福は内」という掛け声と共に豆をまくことで、家庭の中に悪いものが入らないように祈ると同時に、年齢の数だけ豆を食べることで、健康を祈るという風習も根付いています。豆は「大豆」を用いることが一般的ですが、地域によっては他の種類の豆を使用することもあるそうです。

